



遊びの指導

1 「遊び」とは

“自発的な活動で、しかも活動自体を楽しむ活動”（『遊びの指導の手引』から）

子どもたちが自然と夢中になり、夢中になって遊び込む、その中で様々なことを体験的に学習する、それが「遊びの指導」本来の姿です。

2 「遊びの指導」とは

○ 知的障害のある児童生徒に対しては、その学習上の特性から、実態に合わせた指導として「各教科、道徳、特別活動及び自立活動（以下「各教科等」という）を合わせた指導」を行います。「遊びの指導」は「各教科等を合わせた指導」の一つです。

○ 「各教科等を合わせた指導」であることから、「遊びの指導」の内容には、各教科等の内容が含まれています。発達段階が未分化な子どもたちには、将来的には教科別の学習につながる、教科別の学習の基礎となる力を育てる場となります。

○ 国立特別支援教育総合研究所の「キャリア発達段階・内容表」にも、すべての能力の基礎となる力として「幼児期からの遊びを中心とした発達全体の促進」が位置付けられています。

○ 「遊びの指導」と「生活単元学習」；「遊びの指導」の多くは、課題が発展し単元として組織化された「生活単元学習」の前段階的な指導として取り組まれています。

○ 「遊びの指導」と「教科別の指導」；発達が未分化な子どもに教科別の指導を行う場合、実態に合わせて、学習活動に遊びを取り入れる工夫が必要になります。（例；国語の時間に言葉遊び、算数の時間に買い物ごっこなど）一般的には、発達が未分化な場合には教科別の指導の位置づけは小さく、逆の場合には大きくなります。

3 「遊び」は発達の基礎

○ 全ての子どもたちにとって、幼児期の生活の中心は「遊び」です。子どもたちは純粋に自分が関心をもった遊びに熱中します。このような、意欲と自発的な興味に基づいた「遊び」を通して、調和のとれた発達の基礎が培われるのです。

○ 幼児期の遊びの特徴

・ この時期の遊びは、大人や友達との関わりの中で、意欲的・主体的に興味や関心を持ち、体を働かせて周囲の環境や文化に関わり、活動を創造し、展開する働き全体ということができます。

・ 幼児は、遊ぶことにより、達成感、挫折感、葛藤、充足感等を味わい、人との交流を様々な形で体験するなど、心身の調和のとれた発達の基礎をなす経験を積み重ねていきます。したがって、幼児の生活活動のほぼ全てがこの遊びに関わるものです。

・ その中には幼児が人間として発達していくのに必要なものが混然一体となって含まれています。

4 「学習指導要領解説」における「遊びの指導」

- 「特別支援学校学習指導要領解説総則等編」には、以下のように記されています。
- ・遊びの指導は、遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動をはぐくみ、心身の発達を促していくものである。
 - ・遊びの指導では、生活科の内容を始め、各教科等にかかわる広範囲の内容が扱われ—中略—遊びの指導の成果が各教科別の指導等につながることもある。
- 遊びの指導の具体的な内容は、学習指導要領解説の「各教科の具体的な内容」に取り扱われています。以下のように、主として小学部「生活」科の中で取り扱われているほか、「音楽」「図画工作」「体育」などの教科でも取り扱われています。
- 「各教科の具体的な内容」から—
- ・「生活」
 - 1段階 (3) 教師や友達と同じ場所で遊ぶ。
 - 2段階 (3) 教師や友達と簡単なきまりのある遊びをする。
 - 3段階 (3) 友達とかかわりをもち、きまりを守って仲良く遊ぶ。
 - ・「音楽」
 - 2段階 (3) 打楽器などを使ってリズム遊びや簡単な合奏をする。
 - ・「図画工作」
 - 1段階 (2) 土、木、紙などの身近な材料をもとに造形遊びをする。
 - ・「体育」
 - 1段階 (2) 色々な機械・器具・用具を使った遊び、表現遊び、水遊びなどを楽しく行う。

5 展開のポイント

- 遊びの指導の展開においては以下の点に留意しましょう。
- (1) 児童が積極的に遊ぼうとする環境を設定します。
 - (2) 遊びをできるだけ制限することなく、安全に遊べる遊び場や遊具を設定するようにします。
 - (3) 教師と児童、児童同士の関わりを促す場を設定し、遊具等を工夫するようにします。
 - (4) 自ら遊びに取り組むことが難しい児童には、遊びを促し、遊びに誘い、いろいろな遊びを体験させ、遊びの楽しさを味わわせるようにします。
 - (5) 身体活動が活発にできる遊びを多く取り入れるようにします。
 - (6) 遊びの題材を豊富に取り入れた指導をするようにします。
 - (7) 就学前や家庭での遊びの様子から実践のヒントを得ることがあります。また、学習後は家庭や地域での生活に生かされる場合も多くあります。家庭や地域等との連携を密に取るようにしましょう。
- 一般的に、遊びには「自由遊び」と「課題遊び」があります。「自由遊び」は、場や遊具等が設定されることなく、児童が自由に取り組む遊びです。「課題遊び」は、砂・水・粘土・紙・段ボール・積み木・ブロック・ボール等で設定した一定の場や遊具等で、一定の課題に沿って取り組む遊びです。

6 評価のポイント

- 遊びの評価において必要なことは、子どもの発達についての正しい理解です。運動、言語、認知、身辺自立、社会性、情緒といった発達の各領域において、一人一人の子どもの発達段階を具体的に把握しておくことが大切です。そうすることで、遊びを通して個々の子どもの発達全体が促進されたかどうかを評価することができます。
- 実態把握を基にした目標設定では、その遊びの中で期待される具体的な遊ぶ姿を描くようにします。個々の子どもの遊びの様子を毎回具体的に記録しておくこと、次回の目標設定や評価に役立ちます。
- 一つの遊び場に、様々な場やコーナーがあったり遊具や乗り物が用いられたりしている場合があります。場やコーナー、遊具等のそれぞれについて、育てることが期待できる力を具体的に押さえておくことも大切です。

7 展 開 例

- 一般的には、発達の未分化な子どもたちには場や遊具等が限定されることなく、比較的自由に取り組む遊びから取り組ませるようにします。年齢や段階に応じて、次第に、期間や時間設定、題材や集団構成などに一定の条件を設定し活動するような、比較的制約性が高い遊びに取り組ませるようにします。
- 年間計画や複数学年に渡っての題材計画を立てる際、次第に遊びが高まったり広がったりするように考えて活動を設定したり題材を配列したりします。また、一つの題材についても、遊びの高まりや広がりを見ながら計画します。
- 主な題材：
 - ・砂・水・粘土などを使った遊び（泥、小麦粉粘土、絵の具等も）
 - ・紙や段ボールを使った遊び（ビニール等の素材も）
 - ・積み木・ブロックを使った遊び
 - ・ボールプール遊び
 - ・サーキット遊び（アスレチック遊び、遊具を組合せた遊び）
 - ・固定施設（遊具）を使った遊び（校庭や公園での遊び）
 - ・ボール遊び（入れる、転がす、投げる等の動き、野球、サッカー等）
 - ・乗り物遊び（車、そり、車の付いた遊具、自転車等）
 - ・リズム遊び（身体表現、楽器を用いた遊び等）
 - ・ごっこ遊び（劇遊び、お店やさんごっこ等）

